

国語 第1学年 くらべて よもう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：動物の赤ちゃんを、同じ観点で比べて読む。姿についての説明と育ち方についての説明を混ぜず、似ているところと違うところを見付けたうえで、見聞きした経験と結び付けて感想を伝える。C(1)オ・C(1)カの学習として、赤ちゃんの比べ読みカード。同じ観点の説明を並べ、確かめた違いと、そこから思ったことを分けて書く。感想は短い文や教師への口述でも残せる。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、動物の赤ちゃんについて読んだことと見聞きした経験を結び付けて感想を持ち、友達と伝え合っているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)オ・C(1)カの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：赤ちゃんの比べ読みカードを残す。同じ観点の説明を並べ、確かめた違いと、そこから思ったことを分けて書く。感想は短い文や教師への口述でも残せる。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)オ・C(1)カに関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：片方は生まれた直後、もう片方は成長後を比べてしまう。かわいいという感想だけになり、本文と結び付かない。これについて、「生まれたころ」「育っていくころ」の見出しを教師と確かめる。本文で確かめた動物名を各列に置き、同じ行だけを示して話させる。経験がない児童は読み聞かせや図鑑で見たことと比べてよい。〔知識及び技能〕(2)アとC(1)オ・C(1)カを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「同じことを比べると、赤ちゃんのどんな違いが分かりますか。自分が見た赤ちゃんと比べてどう思いましたか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)オ・C(1)カに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：赤ちゃんの比べ読みカードは紙に記録できる。同じ観点の説明を並べ、確かめた違いと、そこから思ったことを分けて書く。感想は短い文や教師への口述でも残せる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)オ・C(1)カの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)オ・C(1)カで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：赤ちゃんの比較は理科的な知識の学習にならないか。

返し：扱うのは〔知識及び技能〕(2)アの共通・相違とC(1)オ・カである。成長の数値を暗記させず、文章のどこを比べたか、読んだことが感想につながったかを見る。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「同じことを比べると、赤ちゃんのどんな違いが分かりますか。自分が見た赤ちゃんと比べてどう思いましたか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)オ・C(1)カに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

